

広報窓

連載 368
The window of public relations

前提は

「誰も関心がない」

日本財託
広報室 課長代理

横尾 幸則

Yokoo Yukinori



今年で広報キャリア10年となります。思い返せば、大学のゼミで聞いたPR会社の方の講演が

人生の分岐点でした。前職のPR会社で食品や医薬品をPRしていた時も、現在

の日本財託で不動産やお金に関わる広報を行う時も大切にしている考え方があります。それは、「誰も興味がない」「誰も知らない」という前提に立つこと。

私たち発信者は、とすると伝えるべき製品サービスのファンになりがちです。しかしそうなればなるほど世間やメディアの視点からは外れてしまいます。特に当社の取り扱う投資用不動産はどうしても「怪しい」「胡散臭い」イメージが付き纏う業界です。第三者視点で本当に伝える価値が

あるか、また歪んで伝わらないか、問い続けるような心がけています。だからこそ、ご取材いただける記者の方々には感謝の気持ちしかありませんし、記事や特集になった際の喜びは格別です。

最近では認知症と財産管理の問題に絡んで、ありがたいことに当社の家族信託事業の取り組みを社会課題の解決策として紹介いただく機会が増えています。今後一つでも多くの社会に役立つ情報を届けられる広報マンでありたいと思います。